IWCニュースレター

情報作戦集団

情報作戦集団司令官　訪米

情報作戦集団司令官　吉岡海将は８月末から約１０日間の日程で米国（ノーフォーク、ワシントンDC、ハワイ）を訪問し、IWに関連する主要な指揮官等との意見交換を実施しました。

吉岡司令官は各訪問先において情報作戦集団の新編に関する説明を行い、その意義及び役割について米海軍関係者の理解を得るとともに、今後、米海軍のIW関連部隊とともに深化発展していきたい旨を述べ、同意を得ました。

今回の訪問で懇談した米軍の将官等は２０名近くとなり、同行した在日米海軍司令部のN2部長ドンリー大佐は「一度でこれだけ多くの人と懇談する出張は初めてだ」と言っていましたが、すべての訪問先において、温かい歓迎に加え、情報作戦集団設立に対する祝意と期待、米軍としての協力を惜しまない、との言葉がかけられました。

情報作戦集団は引き続き米海軍との連携の強化を図り、任務達成を図っていきます。



米海軍IW部隊（NAVIFOR）司令官
ベルナザ中将（左）
米海軍IW戦術開発センター（NIWDC）司令
エン少将（右）



米海軍第１０艦隊副司令官　ハーディング少将



米海軍太平洋艦隊IW部（FIWC-PAC）部長
モール少将

情報作戦集団

INFOPAC 26への参加

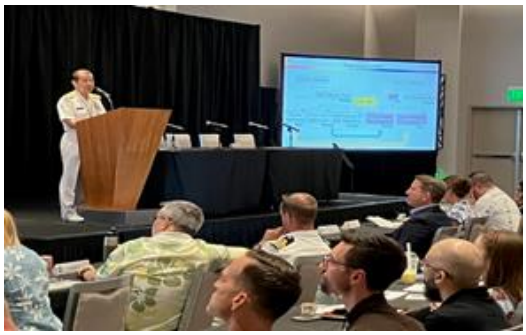


米国ハワイで行われたシンポジウム「INFOPAC 26」において、情報作戦集団司令官が基調講演を行うとともに、パネラーとしてパネルディスカッションに参加しました。

INFOPAC 26は米太平洋軍とAOC(Association of Old Crows)の共催による電子戦及び情報戦（IW)に関するシンポジウムで、今年度は「抑止の維持」をテーマに、同盟国、同志国を中心とした各国の軍民関係者による幅広い議論が行われました。

情報作戦集団司令官は、基調講演において情報作戦集団の新設について紹介するとともに、抑止におけるIW及び電磁機動作戦の重要性について講演を行い、その後のパネルディスカッションでは、情報作戦集団の役割、IWにおける多国間の連携要領、水中通信ケーブルの重要性など、幅広いトピックについて質疑応答、意見交換を行いました。特に司令官が強調した「各国の相互理解、相互のリスペクトの重要性」については多くの賛同が得られ、各国からの参加者に対し、海上自衛隊及び情報作戦集団の存在をアピールする絶好の機会となりました。

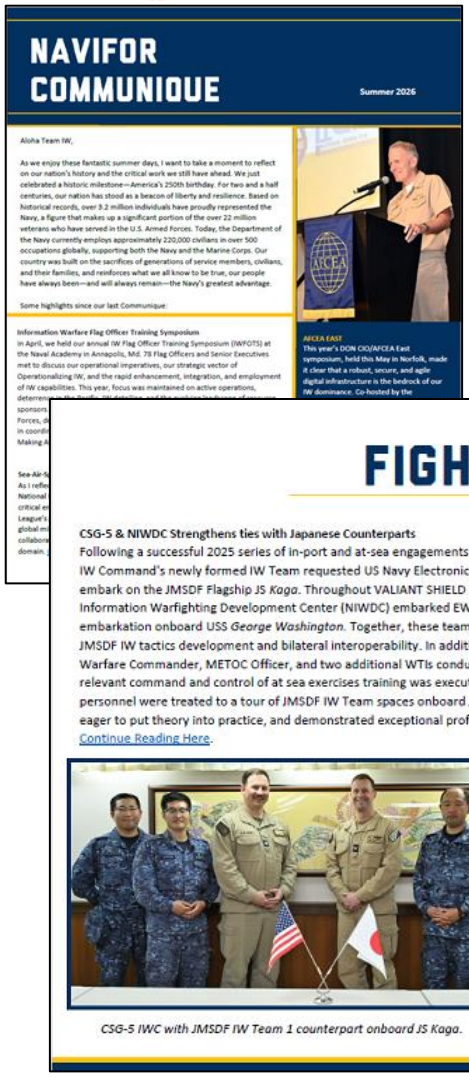
情報作戦集団は引き続き機会を捉えて各国との連携を図り、任務達成を図っていきます。





情報作戦集団

IWチームによる演習参加


NAVIFOR COMMUNIQUE

Summer 2026

Aloha Team IW,

As we enjoy these fantastic summer days, I want to take a moment to reflect on our nation's history and the critical work we still have ahead. We just celebrated a historic milestone—America's 250th birthday. For two and a half centuries, our nation has stood as a beacon of liberty and resilience. Based on historical records, over 3.2 million individuals have proudly represented the Navy, a figure that makes up a significant portion of the over 22 million veterans who have served in the U.S. Armed Forces. Today, the Department of the Navy currently employs approximately 220,000 civilians in over 500 occupations globally, supporting both the Navy and the Marine Corps. Our country was built on the sacrifices of generations of service members, civilians, and their families, and reinforces what we all know to be true, our people have always been—and will always remain—the Navy's greatest advantage.

Some highlights since our last Communique:

Information Warfare Flag Officer Training Symposium

AFCEA EAST

This year's DON CIO/AFCEA East symposium, held this May in Norfolk, made it clear that a robust, secure, and agile digital infrastructure is the bedrock of our IW dominance. Co-hosted by the

FIGHT

CSG-5 & NIWDC Strengthens ties with Japanese Counterparts

Following a successful 2025 series of in-port and at-sea engagements that enhanced our bilateral interoperability, the JMSDF IW Command's newly formed IW Team requested US Navy Electronic Warfare (EW) Warfare Tactics Instructors (WTI) to embark on the JMSDF Flagship JS *Kaga*. Throughout VALIANT SHIELD 26, Carrier Strike Group FIVE (CSG-5) and Naval Information Warfighting Development Center (NIWDC) embarked EW WTIs aboard JS *Kaga* and supported JMSDF IW Team 1 embarkation onboard USS *George Washington*. Together, these teams supported increased Information Warfare training, JMSDF IW tactics development and bilateral interoperability. In addition to the two embarked liaisons, CSG-5's Information Warfare Commander, METOC Officer, and two additional WTIs conducted a one-day visit aboard JS *Kaga*. This visit ensured relevant command and control of at sea exercises training was executed as an in-person tabletop exercise (TTX). US Navy personnel were treated to a tour of JMSDF IW Team spaces onboard JS *Kaga*. The IW Team personnel were highly motivated, eager to put theory into practice, and demonstrated exceptional professionalism throughout our time at sea together.

Continue Reading Here.

CSG-5 IWC with JMSDF IW Team 1 counterpart onboard JS Kaga.

CNIWTG Electromagnetic Warfare Mission Area Review (MAR) Update

In June, Commander, Naval Information Warfare Training Group (CNIWTG) completed a comprehensive 90-day Electromagnetic Warfare Mission Area Review (MAR). This review was conducted to update Basic Phase classroom curriculum, grade sheets, and certification requirements, ensuring strict compliance with Navy and joint publications. Stakeholders from the Fleets, Warfare Development Centers, Program Offices, and training commands attended a one-week Electronic Warfare Mission Area working group to address areas of concern and provide actionable recommendations. Continue Reading Here.

　情報作戦集団司令部のIWチームは、本年６月に行われた演習「VARIANT SHIELD 26」に参加しました。

　演習において、IWチームはIWの観点から第２水上戦群を支援するとともに、米空母ジョージ・ワシントンに乗艦し、空母打撃群における情報戦の運営要領について知見を得ました。

　また、海自の護衛艦「かが」を訪問した米海軍IW戦術開発センター（NIWDC）の電子戦WTI（EW Warfare Tactics Instructors）と意見交換を行い、相互の技量向上を図りました。

　IWチームと米海軍EW WTIとの意見交換については米海軍IW部隊（NAVIFOR）が発刊しているNAVIFOR COMMNIQUEにおいて「IWチームの人員は高いモチベーションを持ち、理論を実践に落とし込むことに極めて熱心であり、演習期間を通して比類なきプロフェッショナリズムを発揮した」と、大きく取り上げられました。

　情報作戦集団は引き続き機会を捉えて米海軍との連携の強化を図り、任務達成を図っていきます。

作戦情報群

初任海士「あかし」乗艦



本年８月、教育隊での教育を修業した初任海士１１名が海洋観測艦「あかし」に乗艦しました。（うち２名は実習後に海洋観測艦「しょうなん」に乗組予定）

１１名の内訳は、横須賀教育隊から４名、佐世保教育隊から６名、舞鶴教育隊から１名です。初めての艦上生活ですが、皆、若さとやる気に満ち溢れていて、何事にも前向きにチャレンジしています。初任海士それぞれの体調に配慮しつつ、実習の成果が上がるよう、艦長以下「あかし」乗組員全員による万全の態勢で取り組んでいます。

サイバー防護群

鹿屋サイバー防護分遣隊による不発弾処理の通信支援









７月２７日、鹿屋航空基地内において、５月に発見された不発弾（米国製50kg普通爆弾）の安全化作業が成功裏に終わりました。

安全化作業自体は陸上自衛隊西部方面隊後方支援隊第１０４不発弾処置隊が実施しましたが、その裏側で鹿屋サイバー防護分遣隊が安全化作業のための臨時電話設置を行い、処理作業に貢献しました。

安全化作業現場（写真①）において、直径３ｍ高さ６ｍの防護壁（写真②）の中に鹿屋サイバー防護分遣隊の隊員が臨時の電話を設置しました（写真③）なお、防護壁の内側は写真④のとおりです。深さ６ｍです。

安全化作業に限らず、海上自衛隊の任務遂行において、命令・報告・通報等の確実・安全・迅速な伝達を図り、関係部隊の緊密な協同連携を実現する手段となる通信を提供・保証するのがサイバー防護群の隊員一人ひとりの任務です。

電話線１本から、無線、そしてサイバー空間に至るまでサイバー防護群は日夜頑張っています。

おわりに

編集後記

「IWCニュースレター」は、情報作戦集団の部隊としての一体感の醸成、部隊間の相互理解、情報作戦集団以外の部隊などへの部隊紹介を目的として、四半期に１回を目途に作成、発刊します。

情報を専門に扱う部隊は活動内容が秘密に包まれ、その多くを知ることはできないというイメージを持たれがちです。しかし、開示できる範囲で我々の活動を公表し、第３者に知ってもらい、理解を得ることもまた情報戦部隊として大切な活動です。また、本ニュースレターが海自隊員だけではなく、隊員家族の皆様をはじめとする一般の方々にも読んでいただき、情報作戦集団の存在やその活動を知るきっかけとなれば望外の喜びです。

編集チーム一同

